小竹貝塚出土品（縄文人骨）
とやまの旧石器（県指定文化財）

直坂Ⅰ遺跡出土品
ウワダイラⅠ遺跡出土品
立美遺跡出土品

2018年３月

富山県埋蔵文化財センター

富山県

はじめに

当センターは平成29年度に開所40年を迎えました。これまでに発掘調査した遺跡は1,521遺跡にも上り、平成19年度からは本県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として、「富山県の重要考古資料集」を９冊刊行してまいりました。

今年度は第10集として、縄文時代前期の小竹貝塚（おだけ）から出土した埋葬人骨と、平成29年３月に本県で考古資料としては初めて県有形文化財の指定を受けた旧石器時代「直坂（すぐさかいち）Ⅰ遺跡出土品」、「ウワダイラ（あい）Ⅰ遺跡出土品」、「立美（たつみ）遺跡出土品」について紹介いたします。

本書により多くの皆様に、本県の貴重な歴史に触れていただき、関心を深めていただければ幸いです。

平成30年３月

富山県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ　小竹貝塚出土品（縄文人骨）…… 1

Ⅱ　とやまの旧石器（県指定文化財）…… 5

1　直坂Ⅰ遺跡出土品…… 5

(1)　指定資料の概要

(2)　遺跡について

2　ウワダイラⅠ遺跡出土品…… 12

(1)　指定資料の概要

(2)　遺跡について

3　立美遺跡出土品…… 18

(1)　指定資料の概要

(2)　遺跡について

4　富山県の旧石器時代遺跡の概要…… 24

(1)　旧石器時代の遺跡と編年

(2)　各石器群の様相

例　　言

1　本書は「平成29年度文化庁　地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の採択を受け、富山県埋蔵文化財センターが作成した。

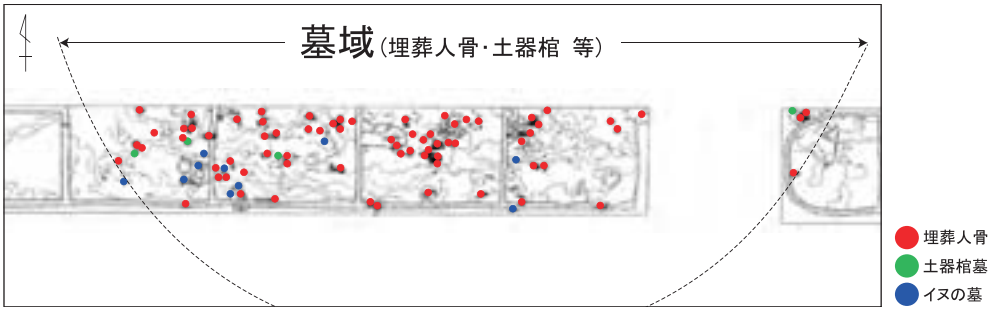
2　県指定資料の概要は、指定調書をもとに作成し、遺跡の概略については、各々の発掘調査報告書の記載内容に現状の評価等を加味して編集した。

Ⅰ　小竹貝塚出土品（縄文人骨）

小竹貝塚は富山市西部、あいの風とやま鉄道呉羽駅北東にある縄文時代前期（約6,500～6,000年前）の貝塚である。数回にわたり調査され、特に平成21・22年度の北陸新幹線建設工事に伴う調査では、最大２ｍにも達する貝塚と縄文人骨91体が発見され、日本海側最大級の貝塚であることが判明した。

91体の縄文人骨のうち、墓壙に埋葬された人骨76体を共伴土器形式に当てはめるとⅠ～Ⅳ期に区分される。Ⅰ期は朝日Ｃ～福浦下層式に相当し13体(男性・女性各５体、不明３体)、Ⅱ期は福浦下層式に相当し12体(男性６体、女性４体、不明２体)、Ⅲ期は福浦下層～蜆ケ森Ⅰ式に相当し29体(男性18体、女性５体、不明６体)、Ⅳ期は蜆ヶ森Ⅰ～Ⅱ式期に相当し22体(男性12体、女性７体、不明３体)となる。埋葬形態は、23体が仰臥屈葬によるものであり、他に側臥屈葬によるもの10体、仰臥伸展葬によるもの１体(第９号)あり、残りは不明である。また仰臥屈葬のうち抱石を持つものは７例ある。人骨から推定される死亡年代が50歳以上は８体、30～49歳が13体、15～29歳が17体、年齢不明成人が28体、14歳以下が10体となる。14歳以下には周産期から１歳ごろも含み、4体が出土しているが、いずれも土器棺内に埋葬された状態で出土した。

本書では遺存状態の良い代表的なもの(成人骨12体・幼児骨１体)を掲載した。



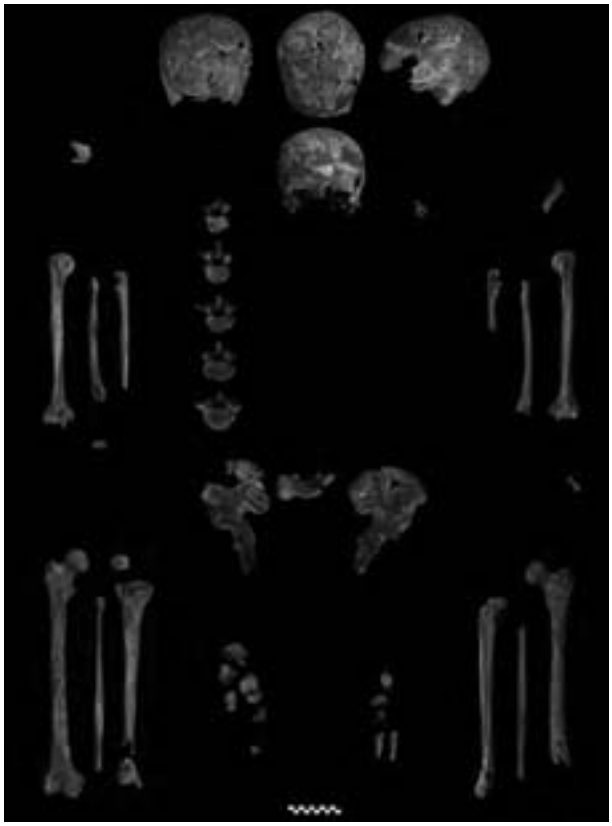
埋葬人骨などの出土位置

第3号土器棺

人骨名	年代	性別	埋葬形態	推定身長	副葬品・【身体的特徴など】	埋葬時期
第1号	15～29歳	男性	抱石葬（仰臥）	169.7cm	自然礫(抱石)	第Ⅲ期
第12号	30～49歳	男性	抱石葬（仰臥）	153.5cm	磨製石斧7点、砥石1点 【虫歯・変形性頸椎症か・腰椎シュモール結節】	第Ⅲ期
第25号	15～29歳	女性	屈葬（側臥）	147.5cm	玦状耳飾(頭部両脇)、貝輪、垂飾 【妊娠痕、虫歯、周産期児合葬か】	第Ⅳ期
第26号	15～29歳	男性	屈葬（側臥）	159.8cm	ツキノワクマ製垂飾状歯牙製品2点、石匙1点	第Ⅳ期
第28号	15～29歳	男性	屈葬（仰臥）	157.3cm	【変形性腰椎症】	第Ⅱ期
第42号	50歳以上	男性	抱石葬（仰臥）	160.6cm	自然礫(抱石) 【変形性脊椎・膝関節症？、頚肩腕症候群？、鎖骨骨折？】	第Ⅰ期
第45号	15～29歳	男性	屈葬（仰臥）	154.8cm	【抜歯？、下あごに線条痕、変形性関節症】	第Ⅰ期
第50号	15～29歳	男性	屈葬（側臥）	160.7cm	石匙1点、磨製石斧1点、不明鹿角製品3点 【クリブラ・オルビタリア】	第Ⅲ期
第70号	50歳以上	男性	屈葬（仰臥）	161.3cm	石鏃1点、石匙2点、磨製石斧4点、刺突具1点 【大腿骨変形性治癒骨折、脛骨に人為的な溝】	第Ⅲ期
第71号	50歳以上	女性	－	－	鳥類製管状垂飾 【妊娠痕、虫歯、歯槽膿漏、肩・肘・手首関節症】	第Ⅱ期
第73号	30～49歳	女性	屈葬（側臥）	149.1cm	【妊娠痕、外耳道骨種、虫歯、歯槽膿漏、胸椎癒合症】	第Ⅰ期
第76号	30～49歳	男性	屈葬（側臥）	167.9cm	スクレイパー1点、軽石製砥石1点 【虫歯、大腿骨繊維性骨皮質欠損】	第Ⅰ期
第3号土器棺	1歳前後	不明	土器内埋葬	－	縄文土器深鉢1点、土器内埋土に草木花粉	第Ⅱ期

出土人骨属性表

※クリブラ・オルビタリア…ストレスマーカーとして用いられる病理痕跡。眼窩上板に観察され、健康状態などを押しはかる指針として用いる。



第1号人骨

第25号人骨

第12号
人骨

第26号人骨

第28号人骨

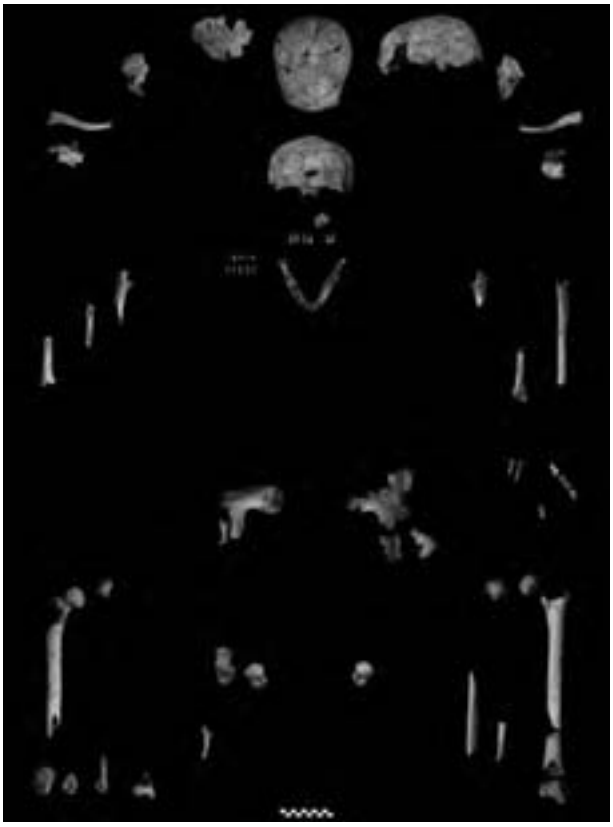
第45号人骨

第42号人骨

第50号人骨

第70号人骨

第73号人骨



第71号人骨

第76号人骨

Ⅱ　とやまの旧石器（県指定文化財〔考古資料〕）

1　直坂（すぐさか）Ⅰ（いち）遺跡出土品（富山県富山市舟新・舟倉新）
－ナイフ形石器３点、彫刻刀形石器２点、錐形石器１点、接合資料１点－

(1)　指定資料の概要

遺跡は、神通川が飛騨山中から富山平野に抜け出る、標高約170mの上位段丘上に位置する。昭和47年に県が実施した調査で、旧石器時代及び縄文時代草創期・早期・中期にわたる各時期の遺物及び遺構が発見され、昭和56年に国の史跡に指定されている。

旧石器時代では、調理場の遺構と考えられている被熱した礫群が検出され、主に流紋岩質凝灰岩製のナイフ形石器、彫刻刀形石器、錐形石器、剥片、石核など約1,200点の石器が出土した。この石器群は、石刃剥離技術が単設打面技法であること、ナイフ形石器に石刃の形状をあまり変えず打面を残したまま基部や先端部周辺に急角度調整を加えたものが多いことに加え、石器の出土層位から後期旧石器時代前半期の石刃石器群としては北陸最古級に位置づけられている。

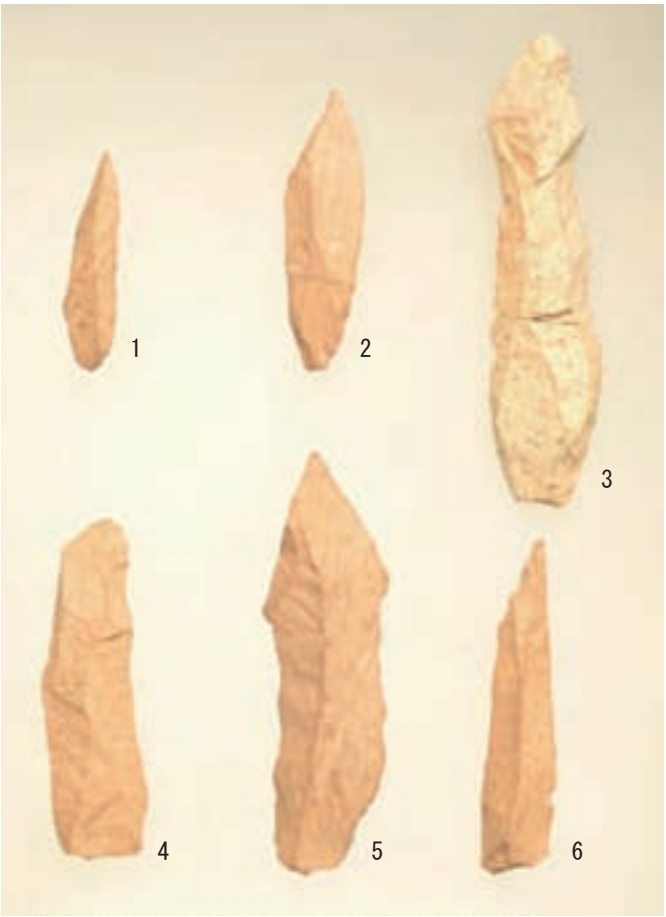
出土品には、少なくとも10数点以上の剥片が接合する資料が３個体あり、それらの分析の結果、

ア．20～30cm大の円礫を用意する。

イ．適当な平坦な打面を設定し、順次、表皮の除去を行いながら、縦長の石刃の剥離を進める。

ウ．石刃の剥離の進行に伴い、適宜、打面再生のための水平方向の剥離を行う。そのため、次第に剥離される石刃の長さは短くなる。

エ．打面は基本的に単設であり、作成された石刃の形状は先端部に向かうにつれて細くなるものが多い。



直坂Ⅰ遺跡指定品

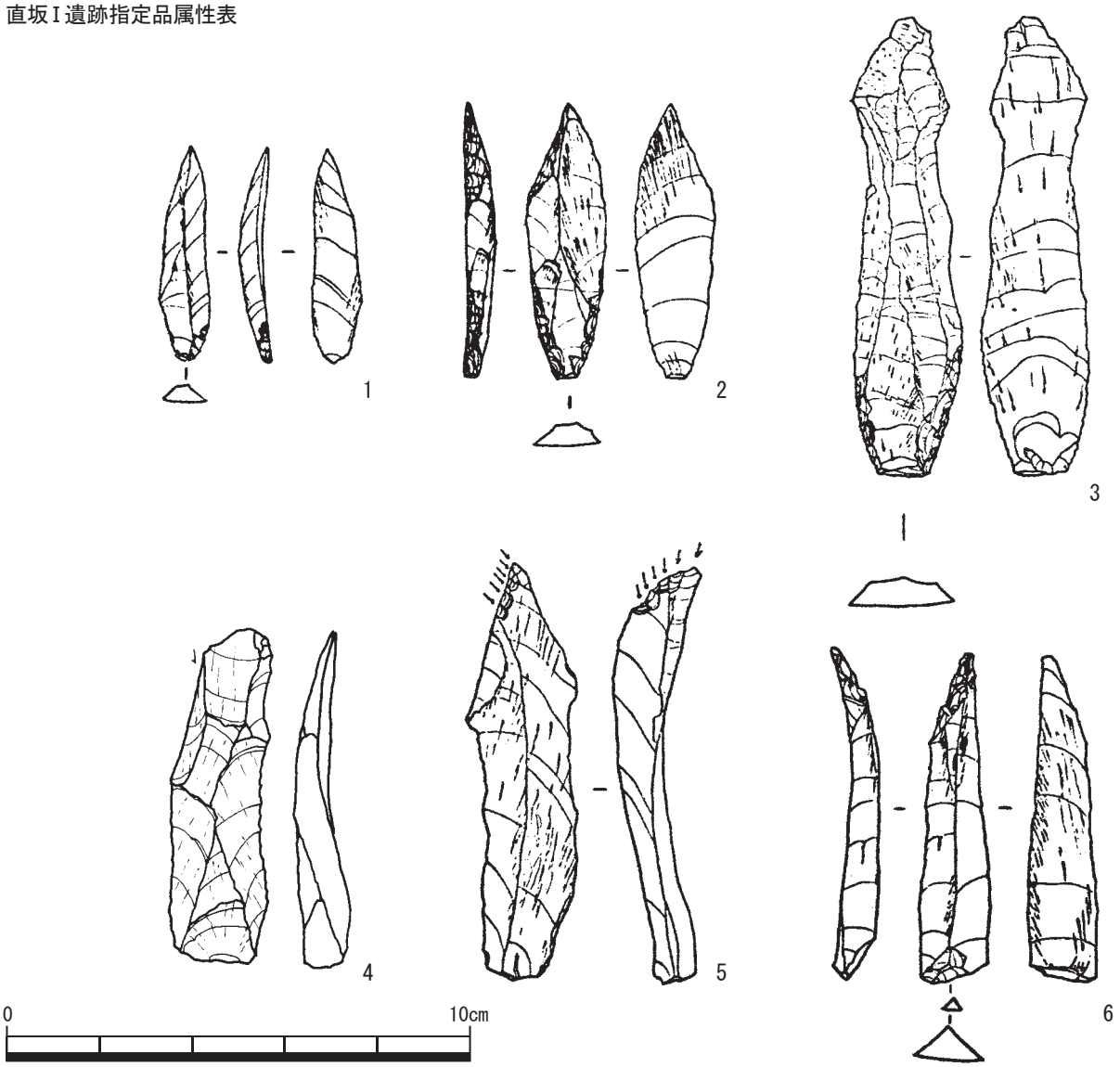
といった石刃剥離技術が復元されている。

さらに、こうした石刃剥離技術の復元研究に加え、本県の旧石器時代遺跡の年代的位置付けの研究が深化するきっかけとなるなど、その後の旧石器時代研究の基礎ともなった。

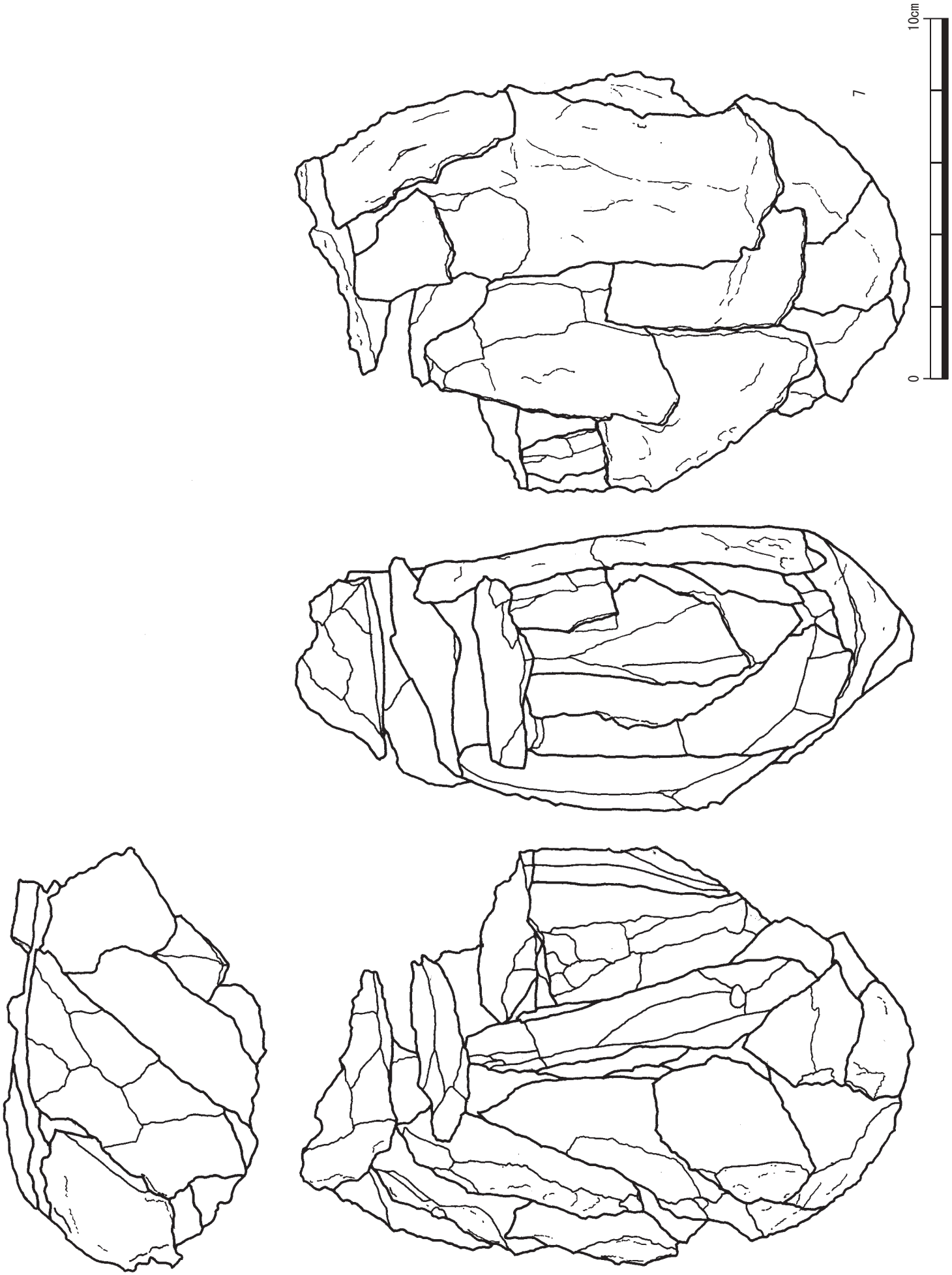
指定7点のうち、ナイフ形石器３点(1～3)は、いずれも素材の大幅な形状変化は行わず、石刃基部両側縁の部分的な急角度調整を基本とするが、２は先端部にも部分的に急角度調整を行っている。彫刻刀形石器２点(4・5)は、末端部が肥厚した石刃を利用しており、上端部に長軸に対して斜め方向に刀面がつけられている。錐形石器１点(6)は、石刃の先端部に長軸に対し斜め方向に急角度調整を施して錐部を作り出している。接合資料１点(7)は、石刃技法で剥ぎ取られた剥片等27点が接合されたもので、ほぼ原石の大きさにまで復元できた資料である。

	種 別	長さ	幅	重さ	石 材	出土地点	報告書図版	番号
1	ナイフ形石器	4.7cm	1.2cm	1.86g	流紋岩質凝灰岩	U1	第7図	①
2	ナイフ形石器	6.1cm	1.8cm	5.77g	流紋岩質凝灰岩	U1	第7図	⑧
3	ナイフ形石器	10.1cm	2.4cm	19.23g	流紋岩質凝灰岩	U1	第7図	⑤
4	彫刻刀形石器	7.3cm	2.0cm	11.34g	流紋岩質凝灰岩	U1	―	―
5	彫刻刀形石器	9.1cm	2.7cm	24.21g	流紋岩質凝灰岩	U1	第7図	⑯
6	錐形石器	7.2cm	1.6cm	7.17g	流紋岩質凝灰岩	U1	第7図	⑪
7	接合資料	18.5cm	12.4cm	1002.43g	流紋岩質凝灰岩	U1	―	―

直坂Ⅰ遺跡指定品属性表



直坂Ⅰ遺跡指定品(1)



直坂Ⅰ遺跡指定品(2)

(2)　遺跡について

① 遺跡の概要

遺跡は、富山県富山市舟倉(旧上新川郡大沢野町舟倉)他の神通川右岸上位段丘（標高約170m）の緩やかな傾斜面に位置する。

県の発掘調査（昭和47年8月2日～10月1日）により、遺跡東南部の斜面地で旧石器時代及び縄文時代草創期・早期の遺構・遺物群、西北部平坦地の西側谷沿いで縄文時代中期の住居跡(６棟)が発見された。

昭和56年に国の史跡に指定され、現在は牧草地として保存されている。

「富山県大沢野町直坂遺跡発掘調査概要」
富山県教育委員会1973

直坂Ⅰ遺跡位置図

② 遺構と遺物

ア 遺構

礫群　２箇所確認され、いずれも被熱しており、石器を伴う。検出状況からいずれも原位置をとどめていると考えられる。炭化物の有無については当時の記録がないため明確ではない。

ユニット　石器製作跡などと考えられるユニットは、U1、pre1、pre2の計３箇所確認された。

U1では、県指定品を含むナイフ形石器、錐形石器、石核、剥片など後期旧石器時代前半の石刃技法に伴う石器群約1,200点が出土した。Pre1は縄文時代の遺構によって破壊されており、数点の剥片を数えるのみで詳細不明である。Pre2は局部磨製石斧や小型ナイフ形石器、縄文時代草創期の石器群などを確認したが、点数は不明。これらの石器群の出土層位は、ローム層内(４層から５層)である。

遺跡遠景（北西より）

イ 遺物

後期旧石器時代前半の石器群はU1ユニットを主体に、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石核、石刃、剥片など約1,200点の石器が出土した。

ナイフ形石器　指定品3点を含め18点(1～3・8～12・23～25・32～36)がある。大半は流紋岩質凝灰岩だが、一部良質な頁岩(32・34・36)やチャート(35)製が含まれる。

遺跡調査風景

石器出土状態

土層堆積状況

彫刻刀形石器　指定品２点を含め９点（4・5・14 ～ 19・41）がある。18・19 は良質な頁岩を用いる。

石核　接合資料（7）に含まれるもの１点がある。単設の打面で 180 度の打面転移が観察される。また、石核から剥離された石刃（13）は他に 100 点余りが出土している。剥片（21・39）の多くは自然面が多く残され規格性が乏しいことから、石核を整えるための調整剥片と見られる。この他に報告書で１点の石核が掲載されているが、現時点で所在が確認できていない。

局部磨製石斧　１点（22）は pre２で発見したもので、小型ナイフ形石器（23 ～ 25）に伴うものと考えられ、U1 に先行する後期旧石器時代初頭の石器群として位置づけられる。

尖頭器　頁岩を素材とするもの（26・27）、安山岩製（28・29）がある。いずれも残存状況が悪いが、縄文時代草創期に帰属する。

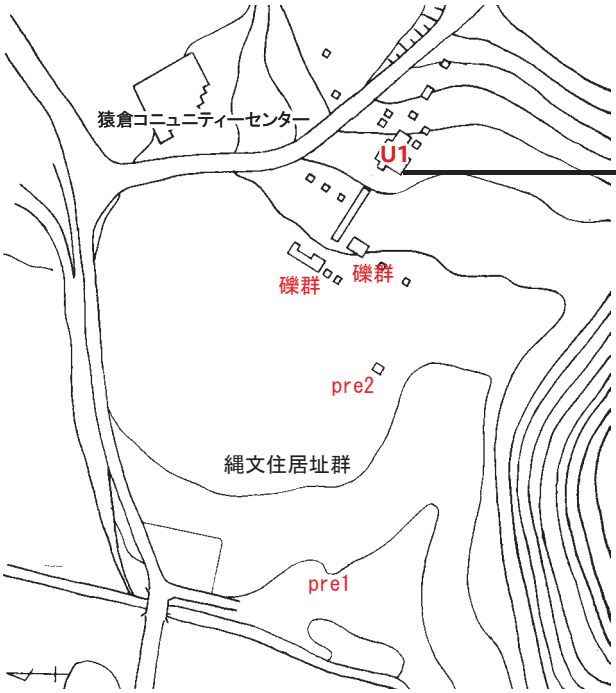
掻器　５点（20・30・31・38・40）ある。頁岩（30・38）とハリ質安山岩（20）のものがあり、このうち（20）のみが後期旧石器時代前半に伴うものと考えられる。

なお、報告書では石器の使用痕観察も行ない、『日本の旧石器文化１（1983）』にその結果が記載されている。

参考文献

橋本正 1983「石器の機能と技術」日本の旧石器文化１　雄山閣

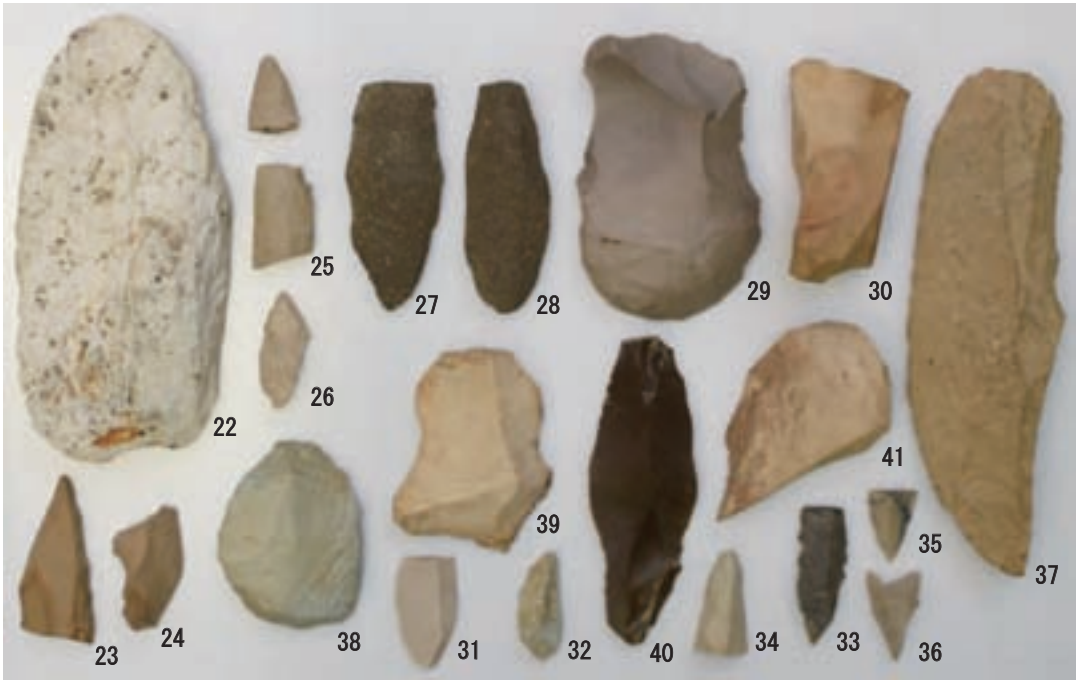
中村由克 2013「後期旧石器前半期における石斧石材の特質と意義」考古学ジャーナル№640



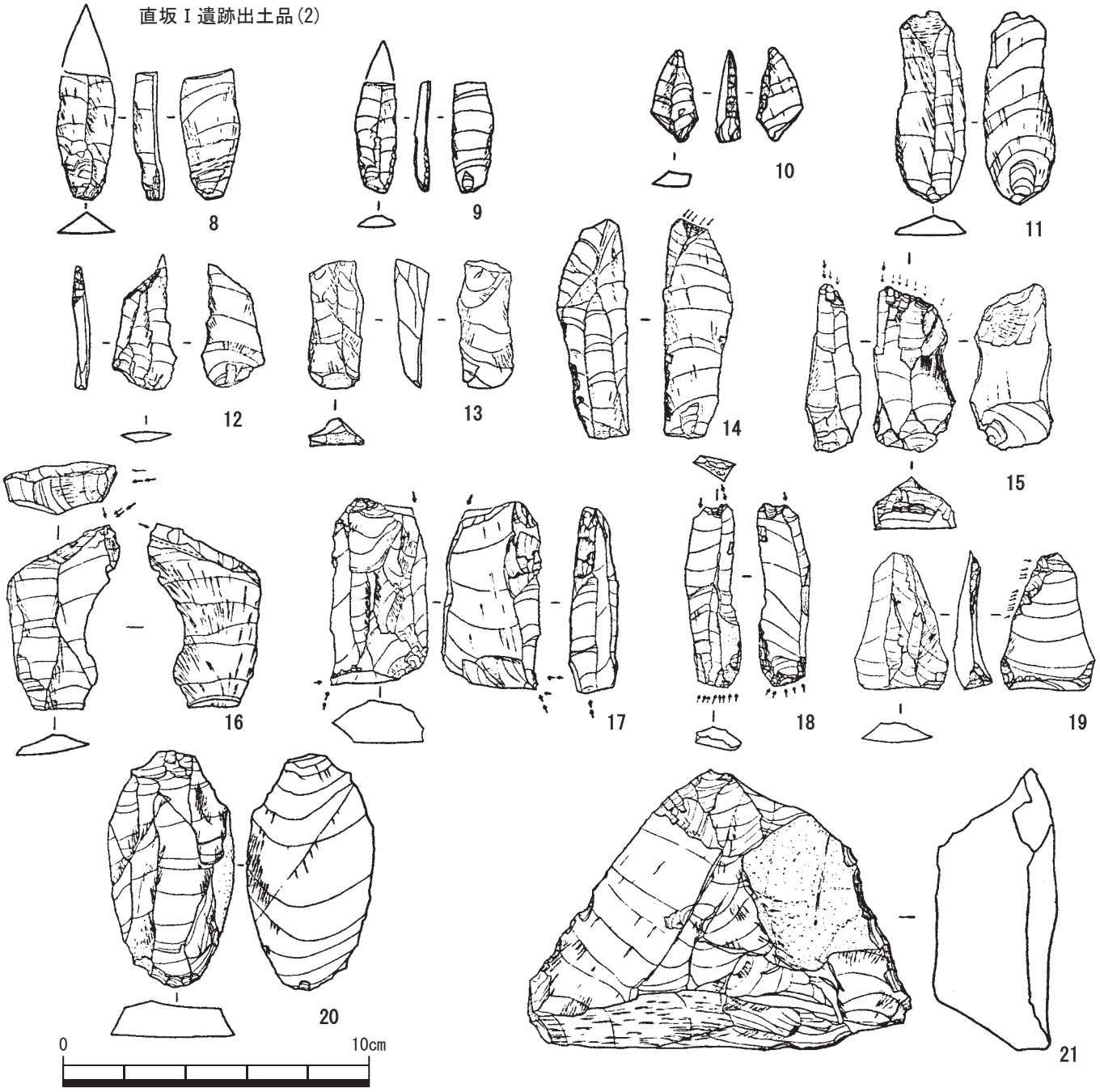
直坂Ⅰ遺跡
トレンチ配置図

直坂Ⅰ遺跡
U1 石器群出土状況

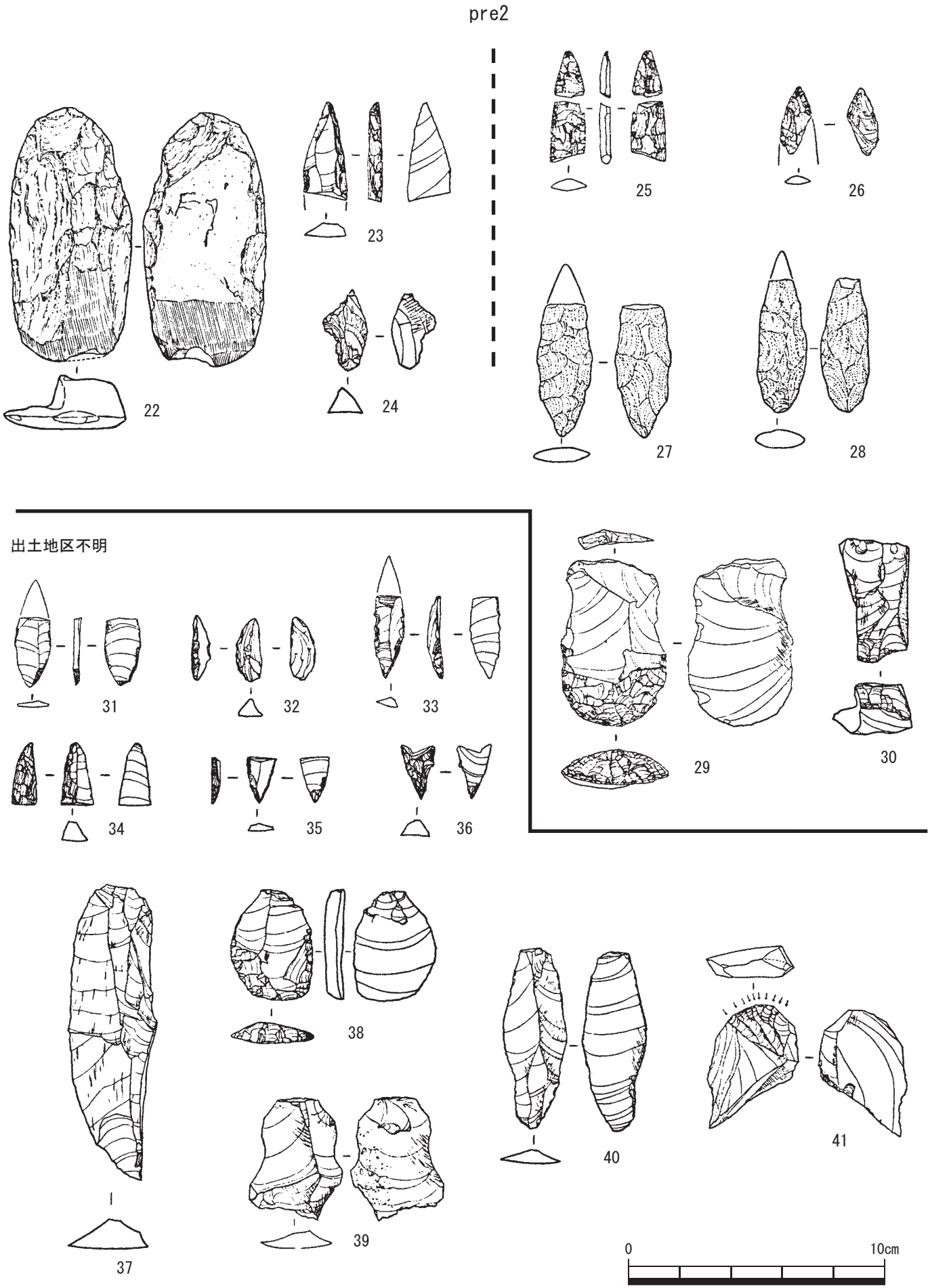
直坂Ⅰ遺跡出土品(1)



直坂Ⅰ遺跡出土品(2)



直坂Ⅰ遺跡出土品(1) U1


pre2
22
23
24
25
26
27
28
出土地区不明
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
0
10cm

直坂Ⅰ遺跡出土品(2)

２　ウワダイラ I（あい）遺跡出土品（富山県南砺市上原）
－ナイフ形石器９点、局部磨製石斧１点、石核４点－

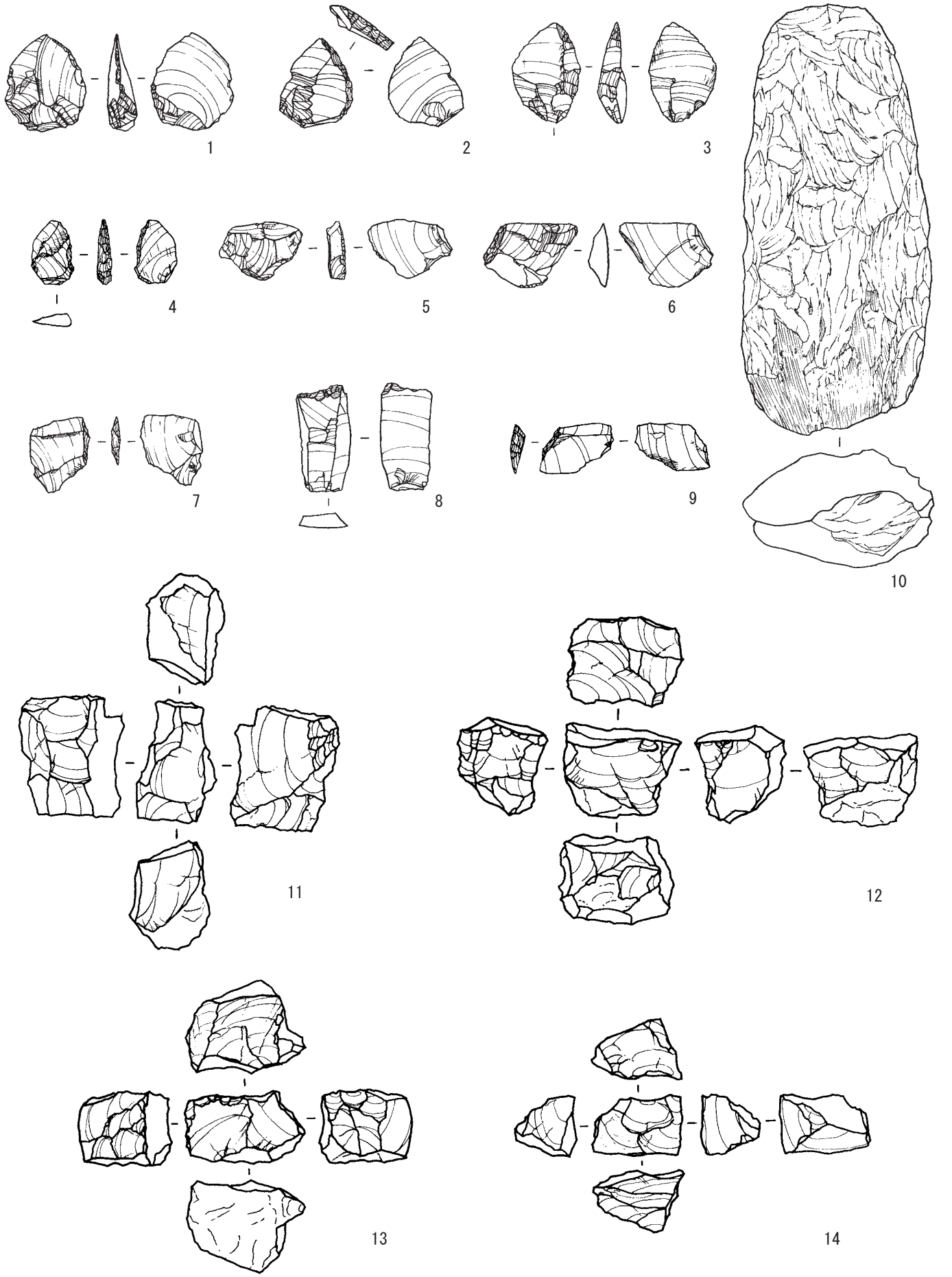
(1)　指定資料の概要

遺跡は、砺波平野の南側に位置し、山田川と小矢部川に挟まれた立野ヶ原台地上の標高約220mにある。昭和48年に県が実施した発掘調査で、在地で産出する鉄石英、玉髄、メノウなどを多用した立野ヶ原型ナイフ形石器や局部磨製石斧、石核など約1,500点の石器が出土した。

後期旧石器時代初期には、東北から山陰の日本海側において、小形のナイフ形石器を主体とする石器群が広く分布しており、大形の厚い剥片から小形の剥片を作出する技術が普遍的にみられる。本遺跡からも同様の技術により作成された小形のナイフ形石器が出土しており、その典型的な石器群である。

立野ヶ原型ナイフ形石器は、小形のナイフ形石器の一類型であり、長さ３cm前後で寸詰まりの小形剥片を使用し、末端部を中心に調整を加えた台形の形状をしたものである。また、素材となる小形剥片の製作にあ

ウワダイラ I 遺跡指定品



ウワダイラⅠ遺跡指定品

たっては、原石を小まめに反転しながら、連続して剥片を作出し、結果としてサイコロ状の石核が残るのが特徴である。

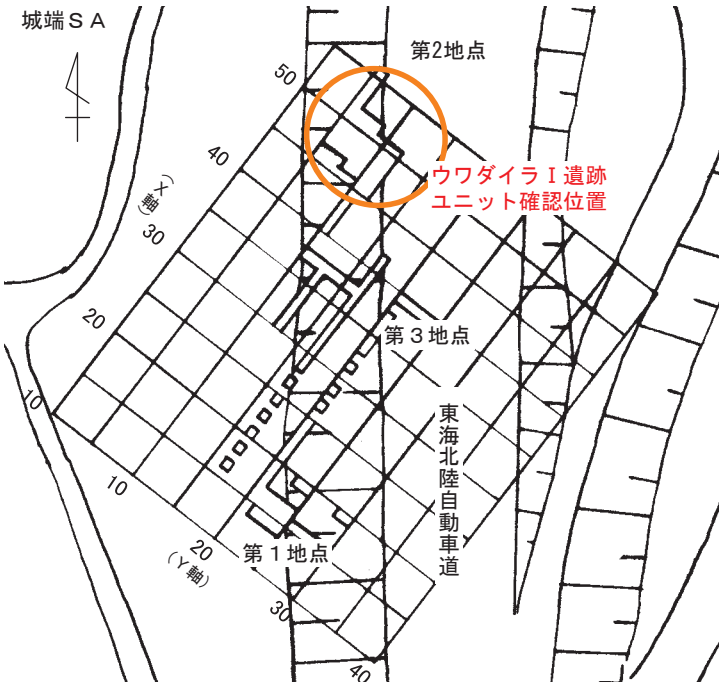
基本的な石器組成は、立野ヶ原型ナイフ形石器に加え、刃部など一部を研磨する局部磨製石斧が伴うものであるが、近隣のウワダイラL遺跡では彫刻刀形石器、西原C遺跡では彫刻刀形石器や錐形石器が伴う例もある。

本遺跡で出土した局部磨製石斧は、小形のナイフ形石器に伴って石斧が出土した初めての事例として高い注目を集め、現在では、小形のナイフ形石器と併せて後期旧石器時代初期の普遍的な石器と認識されるようになった。

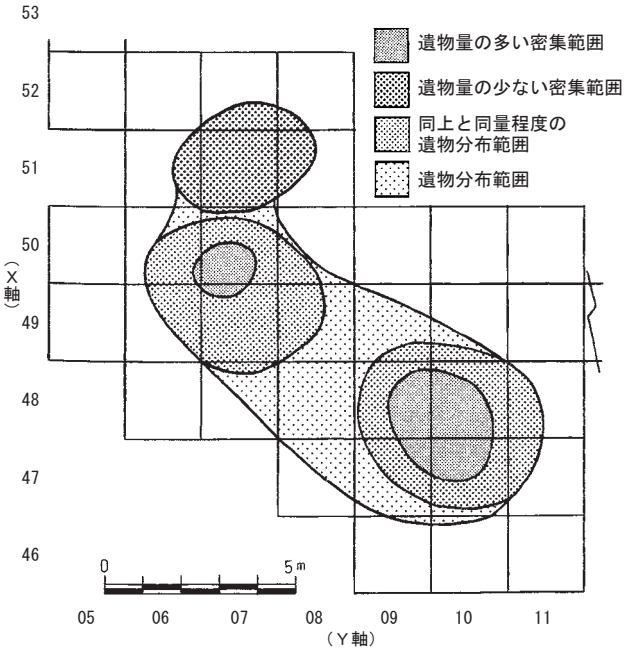
指定14点のうち、ナイフ形石器９点（1～9）は、寸詰まりの剥片の末端部を中心に急角度調整を行ったもので、立野ヶ原型ナイフ形石器の典型例である。局部磨製石斧１点（10）は、透閃石岩を使用した完形品で、刃部周辺に研磨痕がある。石核４点（11～14）は、いずれも特徴的な石器作成技術を示すサイコロ状のものである。

	種別	長さ	幅	重さ	石材	出土地点	報告書図版	番号
1	ナイフ形石器	3.0cm	2.5cm	5.38g	鉄石英	47 - 11	第5図	1
2	ナイフ形石器	2.7cm	2.2cm	3.24g	鉄石英	47 - 11	第5図	4
3	ナイフ形石器	3.0cm	2.2cm	3.68g	玉髄	48 - 11	第5図	2
4	ナイフ形石器	1.9cm	1.4cm	1.14g	玉髄	48 - 11	第5図	9
5	ナイフ形石器	1.3cm	2.6cm	2.20g	玉髄	48 - 10	第5図	8
6	ナイフ形石器	1.9cm	2.4cm	3.47g	玉髄	48 - 11	第5図	16
7	ナイフ形石器	2.0cm	1.9cm	1.63g	鉄石英	49 - 08	第5図	9
8	ナイフ形石器	3.2cm	1.5cm	3.34g	鉄石英	51 - 10	第5図	24
9	ナイフ形石器	1.4cm	2.3cm	1.06g	玉髄	48 - 11	第5図	29
10	局部磨製石斧	13.1cm	5.8cm	317.71g	透閃石岩	―	第5図	30
11	石核	3.5cm	2.7cm	24.11g	鉄石英	47 - 10	―	
12	石核	3.4cm	2.6cm	21.70g	鉄石英	48 - 10	―	
13	石核	2.7cm	3.3cm	24.14g	玉髄	48 - 10	―	
14	石核	2.4cm	1.7cm	6.05g	玉髄	47 - 10	―	

ウワダイラⅠ遺跡指定品属性表



ウワダイラⅠ遺跡調査位置及びグリッドの配置



ウワダイラⅠ遺跡ユニットおよび指定品の相関図

(2)　遺跡について

① 遺跡の概要

南砺市南部(旧城端町)の山麓のつけ根に小台地の集合体である立野ヶ原台地があり、ウワダイラⅠ遺跡は標高約220mに位置する。県が実施した農業基盤総合整備パイロット事業に先立つ発掘調査(昭和48年7月27日～8月1日・8月28日～9月29日)では、ウワダイラⅠ遺跡のうち第２地点で立野ヶ原型ナイフ形石器や局部磨製石斧、石核などの石器が出土した。なお現在は東海北陸自動車道の路線上にあたり、遺跡は消滅した。

「富山県城端町立野ヶ原遺跡群第二次緊急発掘調査概要」富山県教育委員会1974

② 遺構と遺物

ア 遺構（第２地点）

ユニット　石器製作跡と考えられるユニットは１箇所、さらに剥片の分布状況から小さな集中区がａ・ｂ・ｃの３箇所確認された。このユニットからは立野ヶ原型ナイフ形石器49点や局部磨製石斧１点、石核29点、剥片など約1,500点の石器が出土した。調査時点では２～３名程度の旧石器人がこの地で石器製作を行った痕跡としてこのような小規模なユニットが残されたと分析している。

イ 遺物（第２地点）

ナイフ形石器　立野ヶ原型ナイフ形石器は、２次加工の方法から大きく２種類に細分できる。寸詰まり剥片を用い、側縁部に２次加工を施す第１種は指定品４点を含め18点(1～4、15～18)がある。剥片の端部に刃潰し加工を設ける第２種は指定品5点を含め30点(5～9、19～25)がある。

遺跡位置図

遺跡遠景（南より）

器種＼石材	鉄石英	玉髄	石英	その他	不明	合計
立野ヶ原型ナイフ形石器	16	33				49
掻器	1					1
錐形	2					2
くさび形石器		2				2
局部磨製石斧				1		1
敲石			2			2
石核	15	14				29
剥片	607	454	12	11	6	1090
チップ	279	277	9	6	11	582
礫	4	17	49	10	37	117
合計	924	797	72	28	54	1875

ウワダイラⅠ遺跡石器組成表（田上2011）　※合計には第2地点以外のものも含む

遺跡調査風景

遺物出土状態(第2地点)

作業の様子

ウワダイラI遺跡出土品

この他不定形剥片・石刃様の剥片の一端に加工を施すもの(26～29)などがある。これらは調査当時から植刃を目的とした石器として報告されている。石材は在地で産出する鉄石英、玉髄、メノウなどである。

局部磨製石斧　指定品１点(10)がある。

石核　指定品4点を含め29点(11～14)である。いずれもナイフ形石器の石核で、こまめに反転・打面転移しながら連続して剥片剥離を行ったサイコロ状のものである。

錐形石器　1点(32)がある。剥片の一端に先端部を作出するように調整し錐としている。

掻器　3点(33～35)がある。素材とした剥片の彎部を用い刃部としている。

削器　2点(30・31)がある。剥片の一部を刃部に加工としている。

ウ その他の遺物

当遺跡第１地点及び第３地点からは縄文時代前期から後期の遺物が出土した。

参考文献

奥村吉信1987「立野ヶ原石器群と米ヶ森技法」大境第11号
田上和彦2011「立野ヶ原ウワダイラＩ遺跡の石器組成と剥片生産技術」考古学ジャーナル№610
麻柄一志1986「いわゆる立野ヶ原型ナイフ形石器の基礎的整理」旧石器考古学第33号
麻柄一志1995「立野ヶ原遺跡群ウワダイラＬ遺跡の再評価」旧石器考古学第50号
麻柄一志2005「剥片剥離技術と石材」旧石器考古学第58号
麻柄一志2006『日本海沿岸における旧石器時代の研究』雄山閣
麻柄一志2013『日本海学研究叢書　日本海の旧石器考古学 - 日本海を巡る旧石器時代の交流 - 』
三浦知徳2011「北陸地方における旧石器の系統と編年」考古学ジャーナル№610

ウワダイラI遺跡出土品

３　立美（たつみ）遺跡出土品（富山県南砺市立野新）
－尖頭器３点、掻器３点、削器２点、錐形石器１点－

(1)　指定資料の概要

遺跡は、砺波平野の南側に位置し、山田川と小矢部川に挟まれた立野ヶ原台地上の標高約190mに位置する。昭和49年に県が実施した発掘調査では、４箇所のユニットから尖頭器や掻器、削器、錐形石器、彫刻刀形石器などの成品のほか剥片や細片(チップ)など約1,350点が出土した。

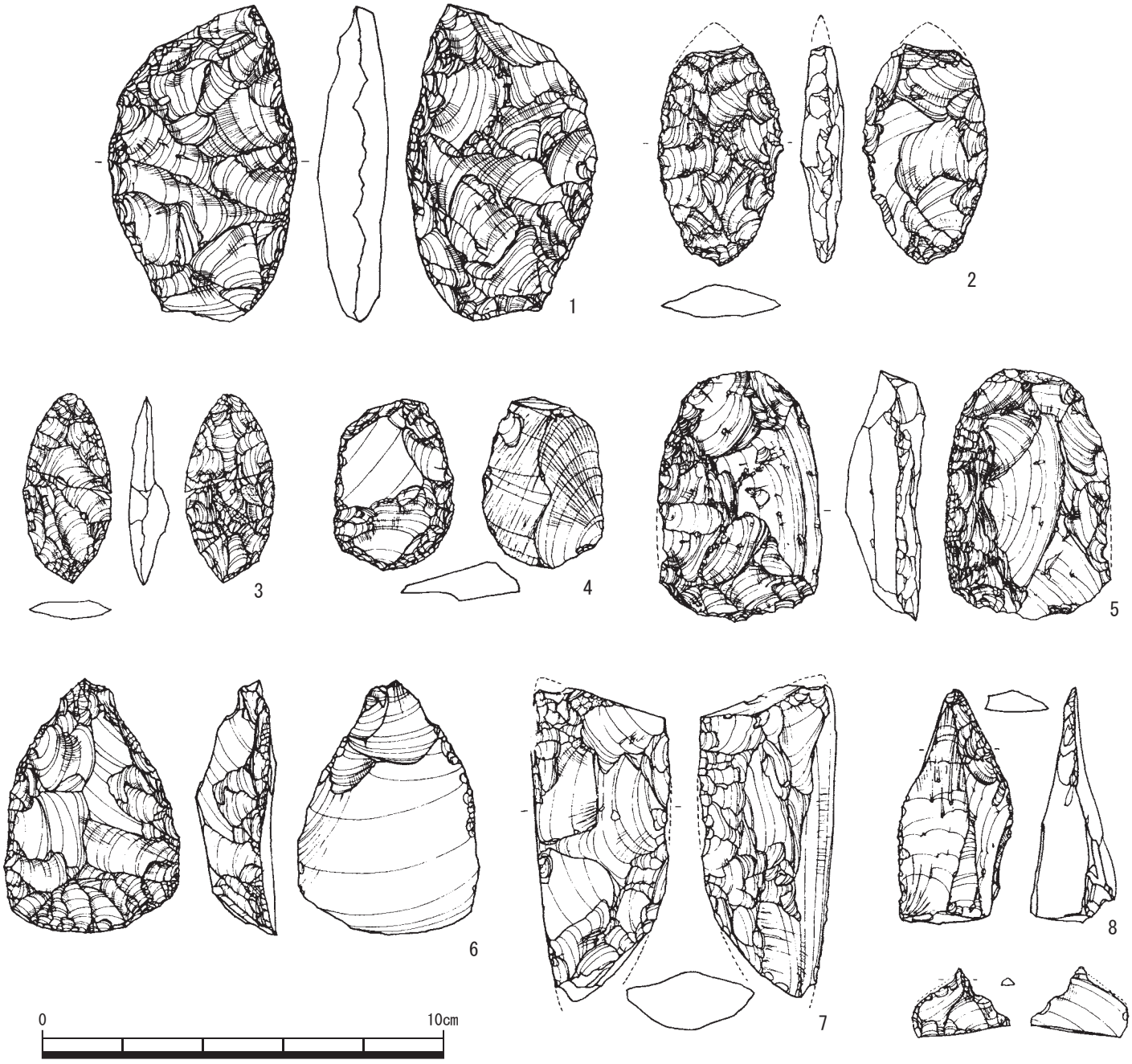
県内の旧石器時代遺跡の多くが在地で産出する石材を多用するのに対し、本遺跡は県内では産出しない黒曜石を使用している点で特異な石器群である。

使用された黒曜石は、蛍光Ｘ線分析により約540km離れた青森県深浦産であるとされ、後期旧石器時代終末期における全国でも屈指の石材の広域移動を示す事例として知られる。石器に礫面が残るものがあることや石核や一次剥片がなく、ある程度の大きさに加工された原石が運搬されてきたものと考えられている。

立美遺跡指定品

尖頭器石器群は、後期旧石器時代終末期の石器群であり、先端部を尖らせ木の葉形に整形した狩猟具である尖頭器を主体とし、掻器、削器などバラエティに富むのが特徴であり、本遺跡は県内におけるその代表例である。

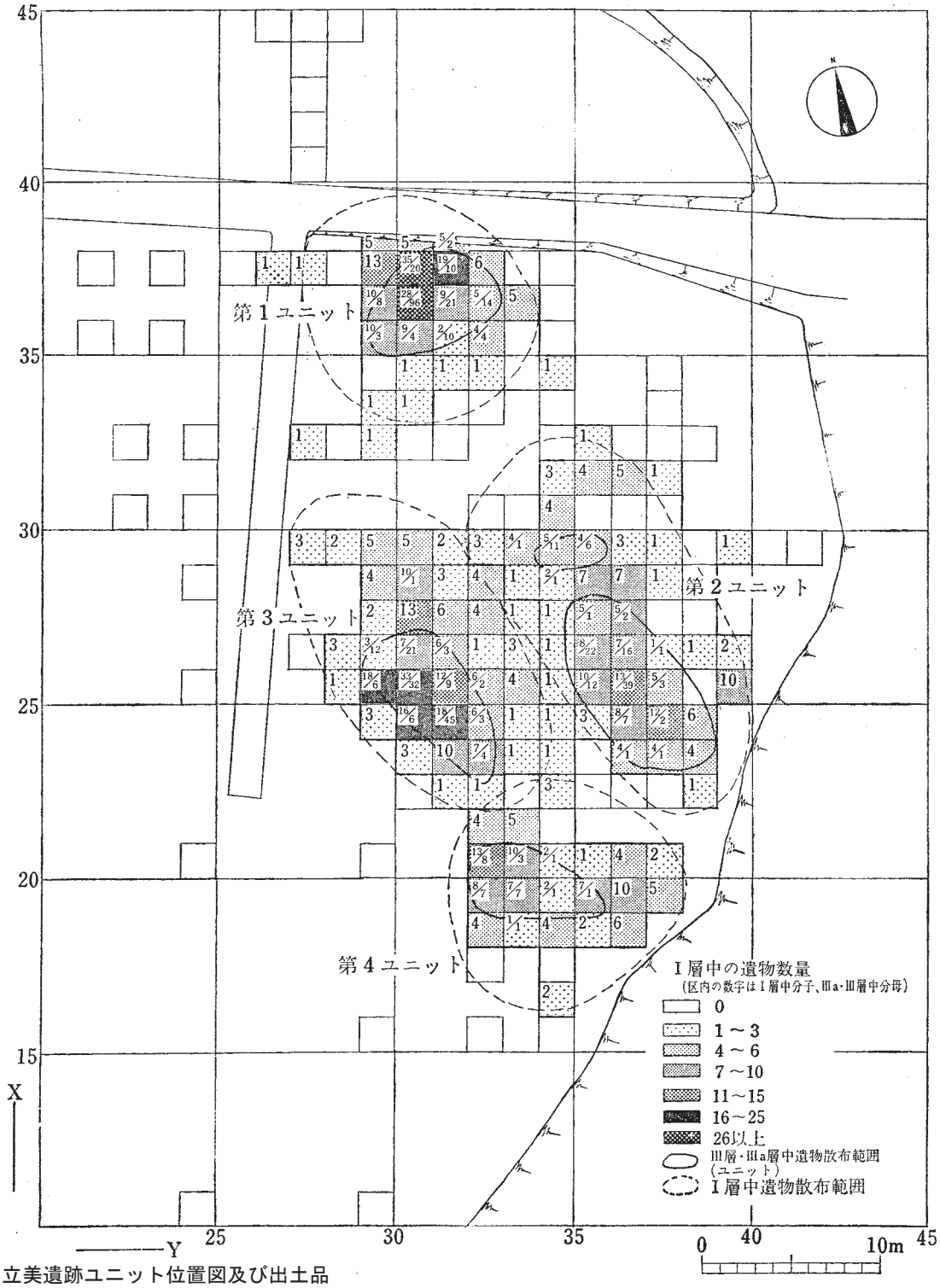
指定９点はすべて黒曜石製の石器である。尖頭器３点(1～3)は、すべて両面加工でいずれも欠損品である。１は他の尖頭器より大きく、全体の加工が粗いことから未成品の可能性がある。２・３は両端が尖り対称的に両側縁がふくらんだ木の葉形の尖頭器で、掻器３点(4～9)は、厚手の剥片に急角度の剥離で刃部を作ったもので、整形が片面のみのもの(4・6)と両面におよぶもの(5)がある。削器２点(7・8)は、大型の剥片の一側縁を鋭角に加工して刃部としており、７は全面に被熱しており表面に変色が見られる。錐形石器１点(9)は小形の剥片の先端部と肩部を片面加工して断面三角形の尖鋭部分を作出している。



立美遺跡指定品

	種別	長さ	幅	重さ	石材	出土地点	報告書図版	番号
1	尖頭器	7.6cm	4.5cm	52.28g	黒曜石	第２ユニット	第8図	1
2	尖頭器	5.1cm	3.0cm	13.68g	黒曜石	第３ユニット	第8図	2
3	尖頭器	4.5cm	2.2cm	6.11g	黒曜石	第１ユニット	第8図	3
4	掻器	4.0cm	2.9cm	10.15g	黒曜石	第３ユニット	第8図	16
5	掻器	5.8cm	3.9cm	41.97g	黒曜石	第１ユニット	第9図	1
6	掻器	5.9cm	4.3cm	37.37g	黒曜石	第３ユニット	第8図	17
7	削器	7.5cm	3.3cm	43.20g	黒曜石	第２ユニット	第9図	5
8	削器	5.8cm	2.8cm	19.56g	黒曜石	第３ユニット	第9図	6
9	錐形石器	1.6cm	2.3cm	1.21g	黒曜石	第３ユニット	第8図	11

立美遺跡指定品属性表



立美遺跡ユニット位置図及び出土品

(2)　遺跡について

① 遺跡の概要

南砺市南部(旧城端町・旧福光町)の山麓のつけ根に小台地の集合体である立野ヶ原台地があり、立美遺跡はこの台地の西端部、標高約190mに位置する。県が実施した農業基盤総合整備パイロット事業に先立つ発掘調査(昭和49年4月15日～5月31日)で、尖頭器や掻器、削器、錐形石器、彫刻刀形石器など約1,350点が出土した。現在では、主に水田となっている。

「富山県城端町立野ヶ原遺跡群第三次緊急発掘調査概要」富山県教育委員会1975

立美遺跡位置図

遺跡遠景（東から）

② 遺構と遺物

ア 遺構

ユニット　石器製作場跡などと考えられるユニットは、第1～4の４箇所で確認された。第１ユニットは、剥片を含めて466点で構成された最も大きなユニットであり、石器には尖頭器2点、掻器2点、削器5点がある。第２ユニットは349点で構成され、石器には尖頭器2点、錐形2点、掻器1点、削器1点、彫刻刀形石器1点がある。第３ユニットは395点で構成され、石器には尖頭器7点、錐形4点、掻器5点、削器4点、彫刻刀形石器2点、スポール3点で最も石器が豊富である。第４ユニットは146点で、石器は削器1点のみとなっている。なお、当ユニット以外では、すべて尖頭器や尖頭器製作にかかる剥片が出土した。

イ 遺物

出土石器のほとんどは黒曜石製で、少量の頁岩やチャート製が含まれる。

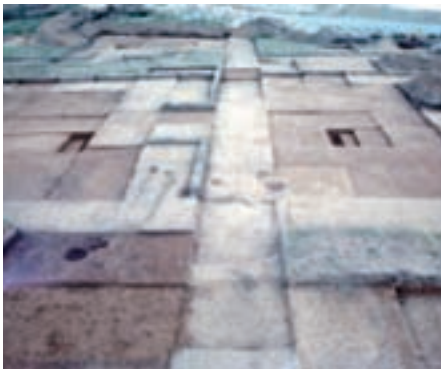
尖頭器　指定品3点を含め6点(1～3・10～12)がある。このうち11は破断面に対して一方向からスポールをはぎ取った跡が見られ、彫器としての機能性を持たせた可能性がある。また、尖頭器を製作する際に削出された剥片が相当量出土しており、厚手の剥片から尖頭器をつくる作業を本遺跡で行っていたことが窺える。なお、尖頭器整形時の剥片(13～17)がある。

掻器　指定品3点を含め6点(7～9・18～20)がある。いずれも厚手の剥片を素材とする。

削器　指定品2点を含め8点(5・6・21～25)がある。剥片の一辺に連続した剥離を施し刃部とする。(25)は頁岩製である。

錐形石器　指定品1点(4)がある。

彫刻刀形石器　1点(26)がある。頁岩の縦長剥片を用い、横方向からの加撃により彫刻面を削出する。(27・28)はスポールである。


遺跡調査風景

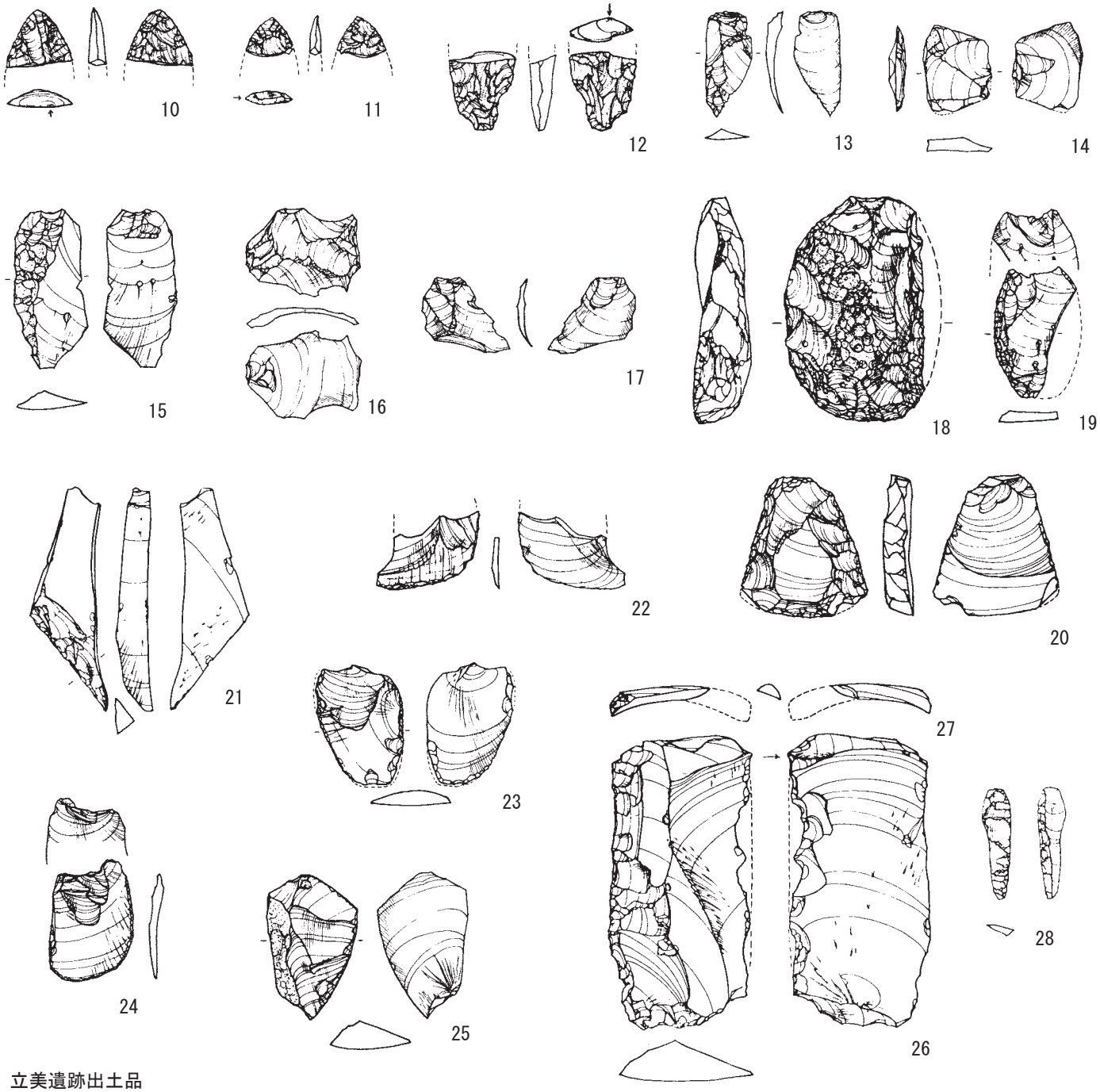
作業の様子

遺物出土状況

	第1ユニット			第2ユニット			第3ユニット			第4ユニット			表採資料	合　計
	Ⅰ層	Ⅲa層	Ⅲ層	Ⅰ層	Ⅲa層	Ⅲ層	Ⅰ層	Ⅲa層	Ⅲ層	Ⅰ層	Ⅲa層	Ⅲ層		
黒曜石	179	69	137	165	34	80	217	48	91	99	1	38	142	1,300
頁　岩	11	3	13	7		11	13	1	3				7	69
流紋岩	8			13			8	2	2				6	39
鉄石英	25		1	29	4	2	9	1		4			11	86
硅　岩	12									2			1	15
その他	8			4						2			2	16
合　計	243	72	151	218	38	93	247	52	96	107	1	38		
			466			349			395			146	169	1,525

立美遺跡の各ユニット層位別原石構成表　（西井1983を改変）

立美遺跡出土品



立美遺跡出土品

0　10cm

参考文献

西井龍儀 1983「立美遺跡」日本の旧石器文化２雄山閣

藁科哲男・東村武信 1985「富山県下遺跡出土の黒曜石遺物の石材産地分析」大境第 9 号富山考古学会

山本正敏 2011「10．立美遺跡」蛍光Ｘ線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定－基礎データ集－

麻柄一志 2013『日本海の旧石器考古学－日本海を巡る旧石器時代の交流－』日本海学研究叢書

4　富山県の旧石器時代遺跡の概要

(1) 旧石器時代の遺跡と編年

本県における旧石器時代遺跡は、約140遺跡が知られているが、その多くは他の時代などの遺跡の調査の折に単独の石器として発見、あるいは表面採集品である。このうち明確に旧石器時代のユニットや礫群が確認できた遺跡は約30遺跡となる。

旧石器時代遺物の出土層位は比較的浅く、例えば後期旧石器時代初期のウワダイラⅠ遺跡では、表土直下から地表下60cmほどにある。また旧石器時代の調査で年代決定の鍵層となる姶良丹沢火山灰（ＡＴ層）は、白岩薮ノ上遺跡（立山町）や野沢遺跡（富山市）において火山ガラスの混入が認められ事例があるものの、肉眼での観察は困難であり、年代決定が困難なケースが多い。

本県の旧石器時代遺跡の編年については、現在のところおおむね以下のとおりにまとめられる。

いわゆるＡＴ層の下位に位置づけられる県内最古の石器群は、東北や関東と同様の小型ナイフ形石器群が見られ、続いてＡＴ層直下に石刃ナイフ形石器群、やや遅れるような形で西日本より入ってきた横剥ナイフ形石器群が並行して存在する。その後に細石刃石器群と尖頭器石器群が見られるが、この両者の前後関係については明確に示す証左は見つかっていない。

(2) 各石器群の様相

① 小型ナイフ形石器群

ウワダイラⅠ遺跡をはじめとする立野ヶ原台地周辺遺跡群（南砺市）のほか細谷遺跡群（富山市）、長山遺跡（富山市）、白岩薮ノ上遺跡（立山町）がある。また、鉄砲谷遺跡Ｂ地点（南砺市）例では局部磨製石斧を持ちながら大形の石刃をもつ石器群もあり、ややバリエーションに富むと考えられる。

② 石刃ナイフ形石器群

直坂Ⅰ遺跡（富山市）や眼目新丸山遺跡（現丸山B遺跡・上市町）、才川七的場遺跡（南砺市）などがある。縦長の石刃を素材とし基部調整を主とした東山型ナイフ形石器系の石器群と考えられている。このほか万年台Ａ遺跡（南砺市）や中尾台Ｋ遺跡（南砺市）では縦長の石刃の側縁と反対側基部調整を行う茂呂型ナイフ形石器系の石器群も確認されている。

③ 横剥ナイフ形石器群

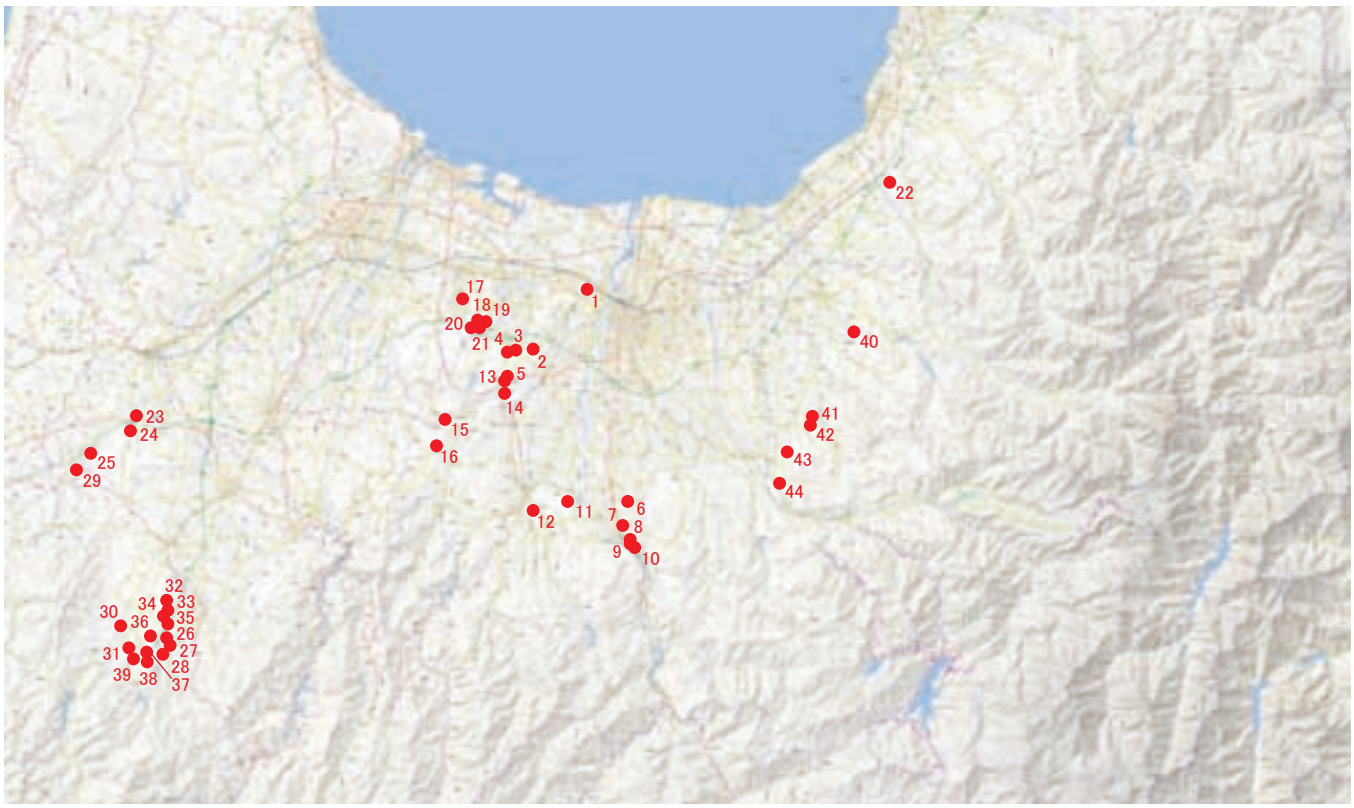
平たい石核から翼状の横に長い剥片を作出する瀬戸内技法に影響を受けたもので、直坂Ⅱ遺跡（富山市）や七曲遺跡（南砺市）などがある。また、新造池Ａ遺跡（射水市）では、横剥ナイフ形石器と石刃ナイフ形石器の両者が出土し、石刃ナイフ形石器に横剥ナイフ形石器がやや後続するものと考えられている。

④ 細石刃石器群

向野池遺跡（富山市）、日ノ宮遺跡（小矢部市）があり、削片系細石刃石器群の素材が小長谷遺跡（富山市）から出土する。

⑤ 尖頭器石器群

立美遺跡（南砺市）のほか、直坂Ⅱ遺跡第3地区（富山市）がある。また、いわゆる神子柴系石器群として新町Ⅱ遺跡（富山市）の尖頭器、野沢遺跡（富山市）や八木山大野遺跡（富山市）の局部磨製石斧がある。これら尖頭器石器群のうち前者は細石刃石器群に先行し、後者は細石刃石器群に後続するものと考えられているが、今のところ明確な証左には乏しい。



富山県の主な旧石器時代遺跡位置図

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	主な出土品
1	201125	北代遺跡	富山市　北代字大畑	茂呂系ナイフ形石器群
2	201360	杉谷Ｈ遺跡	富山市　杉谷字御前野	茂呂系ナイフ形石器群
3	201365	境野新遺跡	富山市　杉谷字上西野	東山系石器群
4	201464	向野池遺跡	富山市　境野新, 北押川	黒曜石製細石刃核（楔形）
5	201473	平岡遺跡	富山市　池多, 平岡, 小長沢　ほか	草創期石器群
6	301014	野沢遺跡	富山市　八木山字亀ノ子割, 南野田	御子柴型石斧
7	301015	八木山大野遺跡	富山市　八木山字奥谷割　ほか	〃
8	301017	直坂Ⅲ遺跡	富山市　直坂	尖頭器ほか
9	301018	直坂Ⅱ遺跡	富山市　直坂字文次郎開割・狐塚割	横剥のナイフ形石器、草創期石器群
10	301019	直坂遺跡	富山市　舟新字小野割, 舟倉字谷内割	縦長剥片のナイフ形石器、局部磨製石斧石器群
11	361021	長山遺跡	富山市　八尾町深谷字長山	縦長剥片のナイフ形石器
12	361025	小長谷遺跡	富山市　八尾町小長谷	削片系細石刃核素材
13	362020	新町Ⅱ遺跡	富山市　婦中町　新町	御子柴型尖頭器
14	362029	千坊山遺跡	富山市　婦中町羽根字千坊、長沢字天王	茂呂系ナイフ形石器群
15	362080	細谷NO. ３遺跡	富山市　婦中町細谷	立野ヶ原型ナイフ形石器群
16	362087	石山Ⅰ遺跡	富山市　婦中町鶴谷	横剥のナイフ形石器
17	381035	中山中遺跡	射水市　黒河	県内最古級の旧石器？(麻柄2013他)
18	381070	高山遺跡	射水市　黒河字高山	縦長剥片のナイフ形石器群
19	381149	草山Ｂ遺跡	射水市　山本新字草山	縦長剥片のナイフ形石器
20	381119	上野赤坂Ａ遺跡	射水市　黒河	彫刻刀形石器
21	381122	新造池Ａ遺跡	射水市　黒河	縦長・横剥のナイフ形石器　局部磨製石斧
22	204064	早月上野遺跡	魚津市　上野	東山系石器群
23	209057	日の宮・道林寺遺跡	小矢部市　道林寺、蓮沼、長	削片系細石刃核削片
24	209107	臼谷岡ノ城北遺跡	小矢部市　臼谷字岡/城・字岡/城北	有舌尖頭器（草創期石器群）
25	209141	安養寺遺跡	小矢部市　安養寺、浅地	横剥のナイフ形石器
26	401035	ウワダイラⅠ遺跡	南砺市　南原	立野ヶ原型ナイフ形石器群
27	401051	ウワダイラＬ遺跡	南砺市　南原	立野ヶ原型ナイフ形石器群
28	401054	西原Ｃ遺跡	南砺市　南原	立野ヶ原台地最古段階の石器群
29	421001	人母シモヤマ遺跡	南砺市　人母字下山	立野ヶ原型ナイフ形石器群
30	421141	才川七的場遺跡	南砺市　才川七字的場	東山系石器群
31	421150	飯山Ａ遺跡	南砺市　重安	東山系石器群
32	421198	有田ケ原Ｅ遺跡	南砺市　有田ヶ原	ファストフレイク
33	421206	万年台Ａ遺跡	南砺市　大西字万年台	茂呂系ナイフ形石器群
34	421207	万年台Ｂ遺跡	南砺市　大西字万年台	茂呂系ナイフ形石器群
35	421211	中尾台Ｋ遺跡	南砺市　大西	茂呂系ナイフ形石器群
36	421241	立美遺跡	南砺市　立野新字立美	黒曜石製尖頭器石器群
37	421257	七曲遺跡	南砺市　七曲	横剥のナイフ形石器
38	421262	鉄砲谷遺跡	南砺市　大西	局部磨製石斧
39	421286	嫁兼平林遺跡	南砺市　嫁兼字平林	東山系石器群
40	322057	眼目新丸山遺跡(丸山Ｂ遺跡)	中新川郡上市町　眼目新　ほか	東山系石器群
41	323110	白岩薮ノ上遺跡	中新川郡立山町　白岩字薮/上	局部磨製石斧
42	323111	白岩尾掛遺跡	中新川郡立山町　白岩字尾掛	有舌尖頭器及び土器群（草創期石器群）
43	323123	吉峰遺跡	中新川郡立山町　下田字川除山	両面加工石器、掻器
44	323127	天林北遺跡	中新川郡立山町　天林、岩峅寺字上/山	有舌尖頭器（草創期石器群）

富山県の主な旧石器時代遺跡

富山県出土の重要考古資料 10

小竹貝塚出土品（縄文人骨）
とやまの旧石器（県指定文化財）

直坂Ⅰ遺跡出土品
ウワダイラⅠ遺跡出土品
立美遺跡出土品

発　行　日　平成30年（2018）3月20日
編集・発行　富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115 富山県富山市茶屋町206-3
印　　刷　中村印刷工業株式会社

本書は、平成29年度文化庁地域の特色ある埋蔵文化財活用事業により作成した。